

クリスマス需要を狙ったイチゴの増収技術



～高単価の11～12月の収量増を目指して～

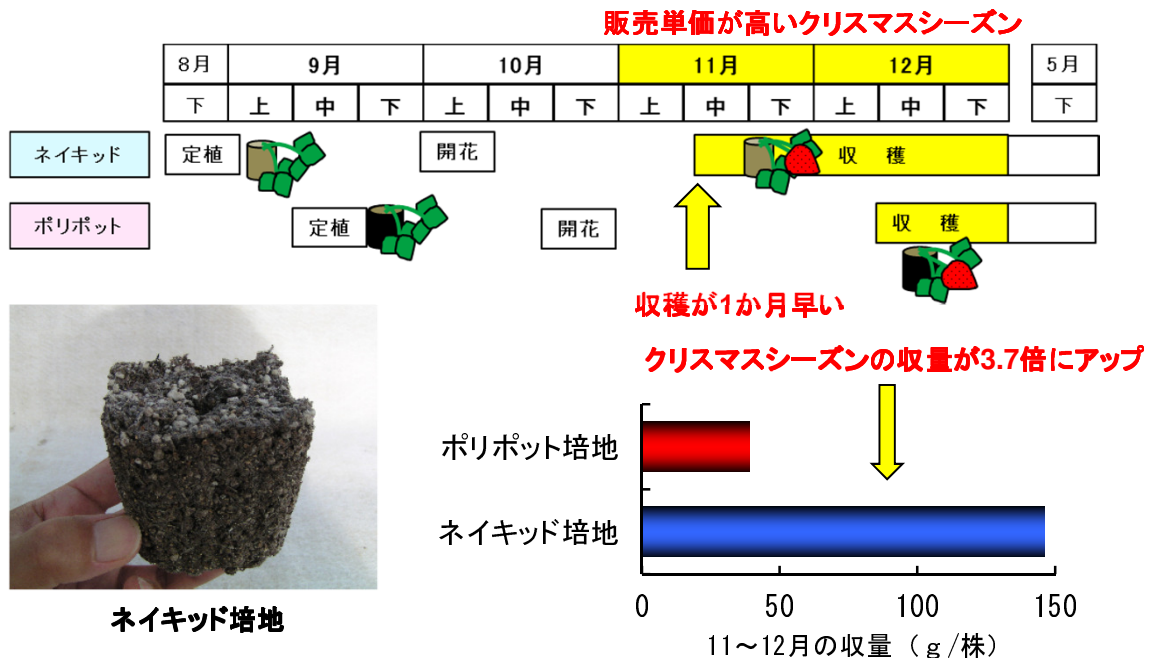
連携機関 | みのる産業株式会社, 京和グリーン株式会社
 研究期間 | 平成23～25年度[県費研究(開発研究)]

研究開発のきっかけ

- ◆ イチゴは、クリスマス需要で販売単価が高い11～12月に収量を増加できれば売り上げ向上が期待できます。
- ◆ しかし、今の栽培方法では収穫開始は12月中旬からで、早期から収穫できる栽培方法が必要でした。
- ◆ 夏季の育苗時の昇温を抑制すれば、花が早く咲いて早期から収穫できると考えました。

研究成果の概要

- ◆ ネイキッド培地は熱で溶ける繊維で培地を固めた、表面が剥き出しの培地です。空気に接する表面積が大きいため、培地中の水分が気化しやすく、培地温の上昇を抑えられます。
- ◆ ネイキッド培地を利用して、培地温の上昇を抑え、早期から収穫できる育苗技術を開発しました。
- ◆ 収穫開始は11月中旬で従来のポリポット培地より約1ヶ月早くなります。
- ◆ 11～12月の年内収量は 3.7倍に増収します。収穫が終了する5月までの総収量は同等以上です。



研究成果の活用状況

- ◆ 普及にはネイキッド培地の資材費が高いため、低コスト化を目指した現地試験を行います。